

「花火と爆竹の街」 上海

暗くなった夜の街のあちこちで打ち上げ花火が上がり、爆竹が鳴り響く――。2月9日夜の上海の様子です。話には聞いていましたが、いざ間近で爆竹を鳴らされるとその音と迫力に驚くとともに、「これが中国の春節だ」ということを実感します。

2013年の春節は2月10日でした。春節は旧暦の正月初一（日本でいう「元日」）のことを指します。法律上の祝日は春節を含んだ3日間ですが、1週間程度の休暇が一般的のようです。工場などでは1月下旬から休みに入る場合もあり、この時期から帰省シーズンになります。

この時期は、中国国内の各交通機関が大変混雑します。この帰省ラッシュを「春運」と言います。この期間は、各交通機関が特別ダイヤを設定するなどして「春運」に備えます。中国発展改革委員会は2013年の「春運」を1月26日から3月6日までの40日間とし、この期間に中国全土を移動する旅客の延べ人数は、前年比8.6%増の34億700万人に達する見込みである、という通知を発表しました。このうち道路利用者が約31億400万人と最も多く、長距離バスを利用する人のほか、大型連休に高速道路の無料通行が実施されたため、高速道路を利用する人が増えたためとみられています。その他の利用者数は、鉄道2億2500万人、水路4308万人、飛行機3550万人の順になっています。

春節直前に寧波市（浙江省の都市。高速鉄道で3時間ほどの距離。）出張のために高速鉄道に乗る機会がありました。駅にはこれから帰省をするだろうという大きな荷物を持った人がたくさんいました。私が高速鉄道に乗車した上海虹橋駅は新しい駅で、待合室が巨大なため、待合室で座って列車の乗車時間まで待つことができましたが、上海に戻る際に利用した寧波東駅は古い駅で待合室が小さく、列車待ちの人で溢れていました。この寧波東駅では、春運対策として駅の入り口に仮設テントがいくつか建てられていました。駅構内に入りきれないときは、外で待つこともあり得るのだと思います。

春節が近づくと、上海の街のあちこちにも仮設テントが登場します。こちらは、春節用の花火・爆竹の販売所です。上海市では1月31日から販売が開始され、市内に約1,500か所の販売所が設置されました。販売価格は100～500元程度が一般的だそうです。ただ、今年は大気汚染の影響もあり、都市部での売り上げは例年の半分程度だったそうです。そう考えると、私が体験した春節の花火・爆竹は例年の半分程度だったのかも知れません。

人民日報（中国共産党の機関紙）が「微博」（中国版ツイッター）に投稿した、春節にまつわる記事がありましたので紹介します。「春節期間に節約するためにできること6つ」というタイトルの記事で「衝動買いは避けよう」といった節約を呼び掛けたものなのですが、そのひとつに「春節に打ち上げる花火や爆竹は控えめにする。お金を燃やしているようなものだから。」というものがありませんでした。中国は新体制になり、国民に対して「節約」をかなり呼び掛けています。もしかすると、ここ数年で春節の様子もだいぶ変わってしまうかもしれません。



巨大スーパー「カルフルー（家樂福）」の店頭に設置された花火売場



花火売場で花火・爆竹を選ぶ人たち



ショッピングモール内に設置された春節を祝う飾り



飲食店やホテルなどの入り口には大きな赤い提灯が飾られる

JETRO 上海事務所 山口 潤  
(産業・雇用政策課)